

〈研究成果の紹介〉

## 強勢台木「C32」利用による極早生ウンシュウの増収技術

農業研究部紀南果樹研究室

### 1. 成果の内容

日本における極早生ウンシュウの栽培では台木として「カラタチ」が利用されていますが、果実品質は良い反面、樹勢が弱く収量がやや少なめです。しかし、病害抵抗性において「カラタチ」はカンキツトリステザウイルスに対して抵抗性があるため台木としての利用価値が高いと考えられています。そこで、果実品質を低下させることなく、樹勢を強化し、かつカンキツトリステザウイルスにも耐性が期待できる台木の選抜を行いました。供試した台木は「ルビーオレンジ」に「カラタチ」を交配して育成された「C32」および「C35」で、極早生ウンシュウ「崎久保早生」の台木として利用した場合の収量と果実品質に及ぼす影響について比較調査しました。

#### (1) 収量について

1 樹当たり収量は、毎年「C32」の収量が多

くなりました。一方「C35」は「カラタチ」より少ない結果となりました(表1)。

#### (2) 果実品質について

果実品質では、糖度及びクエン酸含量について、年次間、台木間で一定の差異が認められませんでした(表2)。

以上のことから、「C32」台木を樹勢がやや弱い極早生ウンシュウ「崎久保早生」の台木として利用した場合、収量が多くなり果実品質も「カラタチ」と同等であることがわかりました。

### 2. 技術の適用効果と適用範囲

「C32」台木は、極早生ウンシュウなど樹勢の弱い品種の樹勢強化対策に利用できます。

### 3. 普及、利用上の留意点

台木用種子は海外から購入する必要があります。(市ノ木山 浩道)

表1 台木の違いが「崎久保早生」の収量に及ぼす影響

台木品質	樹 齢 (kg/樹)						累積収量 (kg/樹)
	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	
C32	4.2 a	11.0 a	7.0	14.3 a	16.0 a	17.8 a	70.3(135) a
C35	2.2 b	6.4 b	6.0	9.4 b	11.6 ab	9.4 b	45.0(87) b
シークワシャー	4.1 ab	9.4 ab	7.0	12.4 ab	10.9 b	15.4 ab	59.2(114) ab
カラタチ	2.2 ab	6.4 b	6.8	11.4 ab	11.5 ab	13.7 ab	52.0(100) ab
有意性	*	*	NS	*	*	**	*

( )はカラタチを100とした時の割合(%)

<sup>2</sup>10年生樹の樹冠占有面積当たり収量

表2 台木の違いが「崎久保早生」の果実品質に及ぼす影響

調査項目	台木品質	樹 齢					平均
		5年生	6年生	7年生	8年生	10年生	
糖度(%)	C32	8.1 b	8.4	7.8	8.2 c	8.7 a	8.2
	C35	8.6 a	8.9	7.9	8.6 b	8.7 a	8.5
	シークワシャー	7.8 b	8.8	8.0	9.1 a	8.3 b	8.4
	カラタチ	7.7 b	8.3	8.1	8.6 b	8.6 a	8.3
有意性		*	NS	NS	*	*	NS
クエン酸(%)	C32	0.83 a	0.94	0.80 ab	1.05	0.88	0.90
	C35	0.81 ab	0.93	0.73 b	0.98	0.84	0.86
	シークワシャー	0.86 a	0.88	0.79 ab	0.95	0.85	0.87
	カラタチ	0.76 b	0.92	0.85 a	0.99	0.88	0.88
有意性		*	NS	**	NS	NS	NS